

「稲成起風」は議員活動用にリニューアルしました！
◆無所属の新人2名、新会派「起風会」を結成
◆再生可能エネルギーの活用を提案、採択に
◆各種防災関連事業の拡充・改善を実現

い な り き ふ う 稲成起風



2011年(平成23年)10月15日
発行：稲成会(鈴木誠議員会)事務局
稲城市平尾2-7-1 TEL:090-2453-8382

http://inagi.info

新人2名で会派「起風会」を結成 「普通のサラリーマン」達が市政に挑む



私(向かって左)と中田中議員(右)
稲城市役所4階・起風会控室にて撮影

本年4月の稲城市議員選挙において、多くの皆様より温かい御支援、力強い御協力をいただいたおかげで、私・鈴木誠は定数22名中10番目で当選することができました。慣れない日々戸惑い大変な日々でしたが、御期待いただいた皆様に心から御礼申し上げます。同じ無所属として共に会派を組んだ中田氏



議席は中央前列14番。現職稲城市議員最年少として全力で働きます

暑い6月・9月議会が終了

放射能対応、防災強化 今夏の市政主題に…

3月11日に発生した東日本大震災を受けて、稲城市政においても放射能問題への対応、市政の防災力についての諸問題が多く取り沙汰されました。この夏、私自身も研究熱心な方からいただいた資料を読み込み、近隣他市で開催された放射能問題に関する勉強会に参加して知識の蓄積を図りました。

関連陳情では6月議会にて「市内の放射線量測定に関する陳情」が提出され可決。当選直後より実施を訴えていた事が実現し、実際に放射線量測定の作業現場数か所にも立ち会いました。(下段写真)また、小さな子供を持つ私と同世代の方々から多数の要望をいただいた「給食材料の産地表示・食材の放射能測定」も早期に実施することが出来ました。しかし、9月議会の「放射能汚染による給食への対応策に関する陳情(他1件)」では東日本産食材を避ける趣旨が



市内の小中学校・幼稚園・保育園の全38施設で行われた放射線測定(写真は「ひらお保育園」の園庭にて撮影)に立ち会い、線量基準値を下回っている事を確認

含まれ、被災地と近隣県に対する風潮被害助長・拡大に繋がることになってしまいうため趣旨採択及び一部採択(弁当持参考)という結論に至りました。稲城市自体の防災機能強化に関しては、防災無線の難聴、帰宅困難者対応や小中学校等における児童帰宅対応についての質疑応答が多く出ました。私も認定防災士、また地域防災を担う一員として防災に関する質問を中心として初の一般質問に挑んでいます。

〈裏面「鈴木誠の一般質問&結果」〉

市内に適応した再生可能エネルギーの活用案を提出、採択に



稲城市の名物「大丸用水」関連の施設は利用可能な水力エネルギー資源として考えられる。(写真上は多摩川の大丸用水堰、写真下は大丸用水の一部)

福島第一原発事故を受け、火力発電で電力穴埋めがなされています。稲城市でもゴミ処理焼却熱を利用している発電が行われていますが、それ以外にも太陽光熱、風水力などの市内での再生可能エネルギー創出の可能性が考えられ、表題の原案を建設環境委員会にて提案した結果、「特定所管事務調査事項」の研究主題に採択されました。ダムでなくとも、京都の桂川では水力発電が実施されており、富山県等でも農業用水を使った小規模水力発電が稼働していることを踏まえ、山水に富む稲城らしい再生可能エネルギーを発掘してまいります。

市街地整備、有害ごみ焼却問題… 稲城が抱える諸問題の渦中に飛び込む



稲城市のゴミが行きつく最終処分場(日の出町・エコセメント工場)を視察

先年、大きな問題として新聞でも取り沙汰された有害ごみ焼却問題、市街地整備の問題など、稲城市が抱える諸課題に直接的に関わる事が出来る建設環境委員、多摩川衛生組合議会議員、都市計画審議会委員になりました。多摩川衛生組合では大丸の清掃工場の建設時に発生した工事入札談合事件裁判、損害賠償について弁護士を交えて議論を重ね

ています。同組合では本年6月にも可燃ごみ搬入時の蛍光管混入(府中市)が発生。多摩川衛生組合自体の更なる改善を推進してまいります。市内の土地区画整理事業に対しては問題点の指摘を行いつつ、稲城らしい市街地開発を要望しています。9月議会の「ランド坂地区住民の安全と生命を守る避難通路と避難場所設置に関する陳情」は陳情趣旨と違う目的が含まれた内容であったこともあり反対の結論に。南山開発盛り土工事に關しては専門家を交えての計画推進を要望しています。詳細はHPに掲載 <http://inagi.info>

現地の声を聞き歩く



平尾はなぶさ幼稚園・セブンイレブン裏手の階段。劣化が激しく今後改修が必須。(写真右)街路樹の根上りでベビーカー、車いす等が通行する際に危険な平尾中央通り歩道(写真左)

私自身が平尾在住であるため、平尾や坂浜に關係される皆様からはお話しを伺う機会が数多くあります。幼児を持つ御家庭や御高齢の方から老朽化した階段の修繕を依頼されたり、散歩愛好家の方から川崎市境の土手土遊歩道整備を、急傾斜道路の緩和、歩道整備に伴う木の保全等々。一つ一つの声に誠実に対処してまいります。鈴木誠は「稲城市議」です。地域に拘らず、気になる事があれば気軽にお声掛けください。

一般質問 & 結果

鈴木誠の

6月・9月議会

一般質問

市議会報では各議員毎に1問しか掲載されません。本紙「稲成起風」においてすら、私の全質疑応答を掲載できません。直接傍聴にお越しいただくか、インターネットでの生中継か録画、または正式な会議録でしか市政の真実は知り得ません。どんな情報も発信側の意図があつて作られる以上、鼠目や敵視が含まれた偏った情報に操作されます。本紙も含め、どんな形式の情報もそのまま鵜呑みにせず、自分の目で確かめることを強くお願いします。

日本大震災、さらに立川断層など多摩直下型地震の懸念を前提に、稲城市の防災に關する取り組みについて質問をしました。

◆家具転倒防止器具助成の拡充と継続(結果△)

家具転倒防止器具を一軒毎に1万5千円分配布する事業に対し、今回の震災を受けて当助成申請数増加への対応、来年度以降も同助成継続はできないかと質問した結果、本年度は補正予算にて前年度までの2倍の申請数に対応するという回答を得た。しかし、事業継続は東京都市長会の動向によるとの回答。継続を強く訴えた。

◆木造住宅耐震診断助成の拡充(結果△)

耐震診断一件毎に掛かった費用の1/2以下、上限2万5千円という稲城の基準は他市から見ると低いと指摘した結果、補正予算で上限5万円と倍増、さらに要望を行い1/2という枠を外すことが出来た。市内の古くに造成された宅地(下平尾地区や坂浜地区等)では擁壁が大谷石などで出来ている場合もあり、その土台・擁壁にも耐震診断助成を創設すべきと指摘。現時点では対象ではないとの回答だったが、今後引き続き要望していく。また、併せて稲城市商工会住宅改修工事補助事業の耐震補強工事の助成拡充を要望した結果、補正予算にて従来の上限30万円から50万円へと引き上げることが出来た。

◆生垣造成補助対象地区の改正(結果○)

同補助(ブロック塀撤去に1mにつき5千円、生垣の設置に1mにつき8千円支給)は市内箇所の地区が補助対象外となっていて、対象外には当制度制定以前からある坂浜西地区(鶴巻・於部屋・堂谷戸・寺台・内山)や平尾台西地区(平尾宅地分譲)が含まれている。両地区はブロック塀が数多く残っており、今回の震災で実際に数件の塀倒壊が発生した。助成対象とするべきではないかと指摘。防災上の観点からも同補助の対象にできるか検討すると回答を得た。

◆災害時要援護者支援ネットワークの装着(結果○)

災害時に自力避難が困難な家庭を助けるための同制度だが、現在この名簿を持つ各地の民生委員さん自身も被災者になるため、自主防災組織などに装着すべきと指摘。6月議会では推進するとの回答だったが、9月議会では進捗を確認すると、市内の1自主防災組織に装着するよう年内を目標に打ち合わせ中との回答を得た。個人情報保護の観点などを踏まえてしつかりとした対応を行い今後の見本となるよう要望した。

◆災害時に公衆電話設置を提案(結果○)

今回の震災では携帯電話が不通となった。公衆電話の通常需要減は仕方ないが、せめて公共施設だけでも設置しておくべきと指摘した結果、通信業者に対して設置要望すると回答を得た。

◆天神・高勝寺・学園通りの積雪対策(結果○)

坂浜・平尾間を結ぶ幹線道路だが急傾斜であり、積雪時には消防車・救急車等までが通行不可能な状態となることを指摘。積雪状況によって除雪を行い、職員だけで対応しきれない時は契約業者を入れて対応に当たると回答を得た。

◆稲城市内の歩道整備対応について(結果○)

市内の街路樹や三沢川沿いの桜並木等では根上りによる歩道の破壊が起きている。また、鶴川街道の坂浜・百村間では道路幅がなされておらず歩道自体が無い危険な状態であることを指摘。根上りに対しては樹木医を交えて切断箇所を決める、鶴川街道は都道であるため東京都へ早期工事を訴えていくとの回答を得た。

◆市内の火災発生増加傾向への対策(結果○)

7月19日時点で昨年の総件数と同数、8月末時点ではさらに1.5倍の火災が市内で起きていることを踏まえ、これからの乾燥期に向けて対策の必要を訴えた。消防団・女性防火クラブ・災害防止協会・自治会(自主防)等に協力してもらい火災予防の周知徹底を行うと回答を得た。

◆災害時食料備蓄の計画改善を要望(結果○)

稲城市の災害時食料備蓄量を質問し、3万6千食(1万2千人の一日分)しかなく、稲城市米穀販売商組合、酒販組合、JA東京南そば商組合、ダイエーと緊急食糧確保の協定をしていると回答。さらに市内小中学校とふれんど平尾の合計18箇所の避難所の内、若葉台小・向陽台小・平尾小の3箇所には食料備蓄等が無いことを指摘。隣接する避難所の無い平尾小については食料備蓄等、災害時物資の配備をするよう早急に見直しを行うと回答を得た。

◆市内の組合型土地画整理について(結果△)

市内北側の平野部は総事業費の10%を補助するのに対し、今から開発が進む南山・上平尾・小田良など南側の丘陵部はその半分、5%の補助というのは不公平ではないかと指摘。平野部は既存街区で建物移転費など事業費がかさむ傾向がある等の理由が回答された。市民税・固定資産税などで将来的に市財政に寄与する事業であるので、補助など対応の見直しを要望した。

◆道路・公園での節電対応の見直し(結果○)

今夏キーワードでもあった「節電」のために道路や公園の夜間灯を消灯したり、若葉台駅周辺のエスカレーターを停止するなどしているが、これでは市民の安全性や利便性を損なうことを指摘し、市内の節電計画見直しを要望した結果、見直すことにすると回答を得た。

◆市広報等の市民募集方法改善を提案(結果○)

市ホームページにカレンダー形式で行事や募集締め切りを掲載する、広報紙に現在の募集項目のインデックスを創設するなど市民共同参画の問口を広げるよう広報体制の改善を提案。今後、広報体制の見直しを行うと回答を得た。

編集 後記

春の選挙から半年、暑い夏が去り、秋風に肌寒さを感じる季節となりました。稲城の梨も収穫終盤、スポーツの秋、食欲の秋、皆様はどう過ごされますか？私

は稲城市民大会(パドミントン男子一部)に出席予定です。やつと議員活動報告を出せる程度に、徐々にですが市議会に慣れてきました。多くの皆様方には当選後の活動諸報告が遅くなりましたことを心よりお詫び申し上げます。議員活動報告というものも各議員毎に特色があり、とにかく読みやすさを重視する方、立場上知り得た情報を掲載する方、なかにはあまり発行されない方もいらっしゃいます。私は文字通り「議員として活動した内容を素直に報告する」という基本姿勢を貫きます。今後も配布活動に御協力くださる同志を募り、定期的に報告出来る体制を整えていきたいと思います。議会と議会の間は、建設環境委員会・多摩川衛生組合・都市計画審議会を中心に、各種勉強会・研修への参加、第二中学校の施設状況視察、稲城ブランド構築に向けて特集雑誌「多摩らび」発行やお土産作り等への参画、そして何より市民の皆様からの情報収集をしてまいります。どんな些細なことでも市政に繋がる大事な一声、お気軽に御相談ください。



《6月～9月の活動日数報告》

公務(本会議・各種委員会・審議会等)40日、地域活動(自治会・消防・JC・奉賛会等)48日、議員活動(市民相談・現地視察・勉強会・式典出席・資料作成・打ち合わせ等)57日。同日内での活動重複もありますが、活動日数は4カ月122日中115日で、休日の7日間は第2子出産、富士登山、友人の結婚式などに費やし、充実した4ヶ月を過ごせました。活動詳細はホームページにてご覧下さい!

⇒ <http://inagi.info>
「稲城の鈴木」でも検索できます
稲成会(鈴木誠後援会)では会員を随時募集しております。年会費無料。鈴木誠を応援してくれる方、「稲成起風」を毎月読みたい方、御連絡お待ちしております。
メール問い合わせ先: inari-kai@inagi.info